

平成31年 第3回

# 武蔵野市教育委員会定例会

平成31年3月1日

於 教育委員会室

武蔵野市教育委員会

## 平成31年第3回武蔵野市教育委員会定例会

○平成31年3月1日（金曜日）

○出席委員（5名）

教 育 長	竹 内 道 則	教育長職務代理者	小 出 正 彦
委 員	山 本 ふみこ	委 員	渡 邊 一 衛
委 員	清 水 健 一		

○事務局出席者

教 育 部 長	福 島 文 昭	教育企画課長	大 杉 洋
教育企画課 教育調整課 担当課長	渡 邊 克 利	指 導 課 長	秋 山 美栄子
統括指導主事	小 澤 泰 斗	教育支援課長	牛 込 秀 明
生涯学習課 スポーツ課長	長谷川 雅 一	生涯学習課 スポーツ課と 武蔵野ふるさと 歴史館担当課長	栗 原 一 浩
生涯学習課 スポーツ課 武蔵野ふるさと 歴史館副参事	小 山 佳 幸	図 書 館 長	鎌 田 浩 康

○日 程

1. 開 会
2. 事務局報告
3. 議 案
  - 議案第5号 武蔵野市教育委員会事務局処務規程の一部を改正する訓令
  - 議案第6号 武蔵野市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部を改正する規則
  - 議案第7号 第2期 武蔵野市図書館基本計画について
4. 協議事項
  - (1) 武蔵野市教育委員会教育長の職務代理者の指名について

5. 報告事項

- (1) 教育部業務状況報告について
- (2) 平成31年第1回市議会補正予算について
- (3) 平成31年度教育費予算（案）について
- (4) 武蔵野市子ども生活実態調査の報告について
- (5) 平成30年度児童生徒表彰受賞者について
- (6) 「武蔵野市立学校に係る部活動の方針」の策定について
- (7) 武蔵野市不登校対策検討委員会報告書について
- (8) 生涯学習に関する調査報告について

6. その他

---

◎開会の辞

○竹内教育長 ただいまから平成31年第3回教育委員会定例会を開会いたします。

初めに、会議録署名委員の指名を行います。

本日の会議録署名委員は、武蔵野市教育委員会会議規則第36条の規定により、議長において、渡邊委員、小出委員、私、竹内、以上3名を指名いたします。

次に、傍聴についてお諮りいたします。

定員の範囲内で傍聴の申し込みがあった場合、本日の傍聴を許可することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、傍聴を許可いたします。

---

◎事務局報告

○竹内教育長 これより、議事に入ります。

本日の議事のうち、協議事項1、武蔵野市教育委員会教育長の職務代理者の指名については、人事に関する案件でございますので、最後に非公開で行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、非公開といたします。

事務局報告に入ります。

教育部長から報告いたします。

○福島教育部長 それでは、前回の教育委員会定例会以降の状況等について、報告をさせていただきます。

まず、平成31年第1回市議会定例会でございますが、2月20日の市長の施政方針を皮切りに、3月26日までの会期で行われているところでございます。

まず、2月22日に平成31年度の市長の施政方針に対する各会派からの代表質問が行われておりますので、そのうち、教育部に関する主な質疑についてご紹介させていただきます。

まず、民主生活者ネットの蔵野議員からは、ユニバーサルスポーツ研修会の継続を期

待するが、どうか。学校施設整備基本計画の策定スケジュール、それから不登校対策としての多様な学びの場の検討の内容について、お尋ねがございました。

市長から、研修会は実施時の効果や参加者の意見も踏まえ検討するが、障害者スポーツの取り組みは、オリ・パラ以降も継続していく。

それから、学校整備基本計画に関しては、第6期長期計画の計画案が出される本年6月以降に長期計画の策定過程を見据えながら進めるべきものと認識している。

不登校対策については、チャレンジルームのより柔軟な運営体制を含めた機能強化やフリースクールとの連携強化などであるとお答えがありました。

次に、むさしの志民会議の竹内議員からは、小中学校における起業家教育も重要と考えるが、見解を。スポーツ施設や校庭等の夜間照明の整備が必要と考えるが、とのお尋ねがありました。

市長からは、子どもたちには従来の職業感にとらわれずチャレンジをしてほしい。それが生きる力を育むことにもつながると考えている。

照明に関しては、良好な周辺環境の維持にも配慮すべきであり、周辺にお住まいの方や利用者の意見を伺う中で、さまざまな可能性を探っていきたいとお答えがございました。

日本共産党武蔵野市議団の橋本議員からは、小中学校体育館へのエアコン設置スケジュール、学校改築にかかる費用についてお尋ねがありました。

市長から、今年度設置する3校はこの3月下旬から、残りの15校は31年度の秋から冬にかけて設置する。長期的に大きな財政負担が見込まれるが、学校施設整備基本計画の策定での議論を見守りたいとお答えがありました。

市議会公明党の落合議員からは、学校施設複合化のメリット、デメリット、スクールソーシャルワーカーの機能充実についてのお尋ねがありました。

市長から、複合化は、児童・生徒と施設利用者の交流等の効果があるとされる反面、児童・生徒の安全性の確保や、児童・生徒数の増加から物理的な課題があり、慎重に検討されるべきものであること。

スクールソーシャルワーカーに関しては、相談件数が増加していること。小中学校における切れ目ない支援を行う必要があることから、さらに拡充したいとお答えがありました。

空の山本議員からは、全中学校への特別支援教室の開設準備、小中学校建てかえにお

ける市民参加、コミュニティの活性化、若い世代の参加を促す取り組みについてのお尋ねがありました。

市長からは、平成31年度は各校の既存教室の設備、備品を整え、平成32年度から各校で指導を開始すること。学校改築に関しては、学校の改築は若い世代を含む地域の方々や児童・生徒、学校の意見を聞きながら進めることが大切であり、その仕組みは担当の教育委員会とよく調整して進めたいとのお答えがありました。

自由民主・市民クラブのひがし議員からは、小中連携教育についてのお尋ねがあり、市長から、小学校と中学校の連携した教育は幼児期の教育との接続と合わせて大切と考えていることのお答えがありました。

次に、2月26、27日に行われた一般質問の主な質疑についてご報告をいたします。

今回の市議会定例会では、15名の議員より一般質問の通告があり、教育長からは8名に対して答弁を行っております。

まず、むさしの志民会議の深田議員からはエコスクールに着手するべきとのお尋ねがありました。

教育長から、学校施設整備基本計画において、建築上、財政上の制約を踏まえた適切な整備水準を定める中で、環境に配慮した施設として計画したい。国のエコスクール活用は、それぞれの学校の改築時点で検討したいとお答えいたしました。

次に、民主生活者ネットの西園寺議員からは自己肯定感を高める性教育についてお尋ねがあり、教育長から、性に関する情報が氾濫している現状を踏まえ、学校教育においても、児童・生徒の発達段階に応じ、必要な性教育を実施していくことが大切であると考えているとお答えをいたしました。

空の笹岡議員からは、外国籍の日本語指導が必要な児童・生徒への支援についてお尋ねがあり、教育長から、日本語指導が必要な外国籍児童・生徒は本年度、10人であること。今後の外国籍児童・生徒数は増加を続けると見込んでいること。言語サポーターの人材確保に努めていくこと。保護者からの生活相談には適切な機関につないでいることをお答えいたしました。

民主生活者ネットの藪原議員からは、吹奏楽クラブの持続可能性についてのお尋ねがありました。

教育長から吹奏楽クラブ等の教育活動の目的は、人格の完成のための活動であること。その上で、教員の人事異動には配慮してきたこと。ただし、今後の持続可能性を考える

と、音楽の教員が指導する吹奏楽クラブから地域在住の指導可能な方との連携や外部指導員等も含めた組織で運営する体制づくりを検討していくことも必要であるとお答えいたしました。

また、中学校の標準服について、性別にかかわらず、本人の希望により自由な標準服を選べるようにするべきとお尋ねもありました。

教育長からは、標準服は一般的に学校への帰属意識や安全管理上の観点から、各学校が定めるものであり、その上で、生徒や地域の実態、社会的要請等に応じて、その時代にふさわしい決まりのあり方について、それぞれの学校で検討することは必要であるとお答えをいたしました。

市議会公明党の大野議員からは、野田市で起きた女児虐待死事件に関連して、学齢期の子どもについて、お尋ねがありました。

教育長からは、いじめにつながりかねない事案は教員一人で抱え込むことがないように、スクールカウンセラーを含め、学校全体で組織的な対応を行っている。スクールロイヤーやスクールソーシャルワーカーの制度を充実させていくことは重要であると考えているとお答えいたしました。

民主生活者ネットの川名議員からは、ランドセルの重さについてお尋ねがありました。

教育長からは、文部科学省の通知に適切に配慮するよう指示していること。各学校では使用頻度の低い教科書や教材等を教室で保管したり、学期始めや終わりに持ち帰る荷物が過度に重くならないよう、計画的に持ち帰らせるなどの工夫をしていることをお答えいたしました。

内山議員からは、自治と平和を尊重する市民を育てる教育についてのお尋ねがあり、教育長から進んで国際社会に貢献できる資質、能力の伸長を図るため、市民性を高める教育や平和教育、オリンピック・パラリンピック教育等の充実を図っていくことをお答えいたしました。

市議会公明党の浜田議員からは教育相談の内容について、お尋ねがありました。

教育長から、来所相談は増加傾向にあること。男女の内訳は、男子が7割であること。今後も相談員のスキルアップを図り、関係機関と連携しながら相談者に寄り添った相談を行っていくことをお答えいたしました。

また、SNSを活用した児童・生徒の相談窓口についてもお尋ねがあり、教育長からSNSは文字による相談の難しさや、相談員の体制づくりなど、課題が多いこと。相談

者の気持ちに寄り添いながら、顔の見える関係で相談を行うことが大切と考えていること。SNS学校ルールをもとに、各家庭でSNS家庭ルールを考え、実践するよう取り組みを進めていることをお答えいたしました。

議会に関しては以上でございます。

次に、教育委員会に関することについてご報告をいたします。

2月29日火曜日に、武蔵野市シルバー人材センターの加藤会長ら4名の方がお見えになり、雑巾2,300枚を教育委員会へ寄贈していただきました。これは社会貢献への取り組みとして、会員の手づくりや、会員から寄附されたタオルを手芸小物班で雑巾に仕立てたもので、市立小学校で使用してほしいと、平成24年度から毎年、寄贈していただいているものです。寄贈された雑巾は小学校に配布し、児童の清掃活動などに使わせていただく予定でございます。

次に、第3回武蔵野市子ども図書館文芸賞の表彰式が2月24日の日曜日、午後2時から、中央図書館視聴覚ホールにて、受賞者13名を含む66名が参加し行われました。

当日は竹内教育長の挨拶、表彰状授与から始まり、受賞者による作品の朗読と、それぞれの部門ごとに審査員講評が行われました。

今回の子ども図書館文芸賞として、子どもたちが日ごろ感じていること、思い描いたことをさまざまな方法で表現し、国語力の向上や豊かな表現能力の育成につながるものと期待しております。

次に、市内の学校の状況についてご報告いたします。本日、3月1日は都立高校の合格発表日で、午前9時から各学校で発表されているところでございます。進路の状況につきましては、来月ご報告をさせていただきます。

小学校6年生の進学状況ですが、市立中学校への進学率は平均で61.9%。昨年在58.9%。また、国公立私立中学校への進学率は約35.7%。昨年在38.9%でございます。残りの割合で足りない分については転出者、インターナショナルスクールなどがございます。

次に、3月2日には、小学校9校の吹奏楽団が参加する武蔵野市ジュニアバンドジョイントコンサートが、また3月3日には、小学校3校と第一中学校武蔵野市ジュニア合唱団「風」の皆様が参加する、武蔵野市青少年コーラスジョイントコンサートが、市民文化会館で、それぞれ開催される予定でございます。

以上で事務局報告を終わります。



○竹内教育長 ただいまの報告にご質問、ご意見がありましたら、お願いいたします。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 雑巾の寄附の件ですが、シルバー人材センターからの寄附だということを生徒たちに知らせているのですか。

○福島教育部長 知らせています。

○竹内教育長 学校によっては、「ありがとうございました」と、お手紙を書いてくれるところがあります。

ほかにはよろしいでしょうか。

議会から、去年は水筒の持ち込みとか、いろいろな学校運営に関する教育課程の中も含めて、ご質問、ご意見をいただくことが多いところで、改めて考えてみたんですけども、地教行法の規定を受けて、学校管理規則を武蔵野市でも定めているじゃないですか。あの中では、例えばちょっと前に問題になった教科書以外の教材についての届け出とか、学校を規制する規定もあるんですけども、あそこに書いてない事柄は、どう解釈するかだと思います。基本的に、私は学校の主体性を生かすように解釈するべきであって、書いてない事柄は基本的には学校判断の事柄ではないかなと思っています。

藪原議員のご質問にお答えしたのも、基本的には適切な判断をしたり、日常のことはいろいろ学校では起きますから、適切な判断をしたり、あるいは行動をしたり、それを望むわけですから、そのためにも、学校でいろいろ考えたり議論して結論を持ってもらうのが、言ってみれば、そこが遠いようかもしれないですけども、そこに至る適切な道ではないかと思っているという趣旨のお話もしました。

今後、いろいろと学校運営にかかるものというのは、緊急な、あるいは生命にかかわるものについては一律でということも出てくると思うんですけども、議会とはそういう議論のやりとりをしているところです。

---

#### ◎議案第5号 武蔵野市教育委員会事務局処務規程の一部を改正する訓令

○竹内教育長 それでは、議案に入ります。

議案第5号 武蔵野市教育委員会事務局処務規程の一部を改正する訓令を議題といたします。

教育企画課長から説明をお願いいたします。

○大杉教育企画課長 それでは、議案第5号 武蔵野市教育委員会事務局処務規程の一部

を改正する訓令につきまして、ご説明を申し上げます。

今回の改正でございますけれども、まず第3条でございますが、これは指導課の地域コーディネーターに関すること、学校ボランティアに関すること、教育推進室にかかわる事務でございますが、これまで明文化されておりましたので、改めまして、記載をしたということでございます。

教育支援課の奨学金に関することにつきましては、平成30年度をもちまして事務がなくなりますので、ここで削除するものでございます。

また、別表でございますけれども、市民会館につきましては、従前から勤務時間を変更いたしまして、これは事実上、館長だけしか適用はされないのですが、木曜日と日曜日が勤務を要しない日としているところで、このような改正でございます。

よろしく願いいたします。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。

議案第5号について、採決に入りたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 異議ないものと認め、採決に入ります。

議案第5号 武蔵野市教育委員会事務局処務規程の一部を改正する訓令、本案を事務局提案のとおり決することに賛成ということで、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、本案は事務局提案のとおり、決定させていただきます。

---

◎議案第6号 武蔵野市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部を改正する規則

○竹内教育長 次に、議案第6号 武蔵野市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部を改正する規則を議案といたします。

教育支援課長から説明をお願いします。

○牛込教育支援課長 それでは、議案第6号 武蔵野市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部を改正する規則について、ご説明をいたします。

改正内容については、2点ございます。

1点目につきましては、資料の表面、補償基礎額の表につきまして、都立学校公務災害補償条例の改正に伴い、この額を改正するものでございます。

もう1点、2点目につきましては、資料裏面にかけてありますが、こちらの対象者の範囲に関する規定について、学校教育法の一部改正に伴う政令の施行に伴い、専門職大学の規程を追加するものでございます。

改正内容の説明については、以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明にご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。

議案第6号について、採決に入りたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 異議ないものと認め、採決に入ります。

議案第6号 武蔵野市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部を改正する規則について、本案を事務局提案のとおり決することに賛成ということよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、本案は事務局提案のとおり、決定させていただきます。

---

### ◎議案第7号 第2期武蔵野市図書館基本計画について

○竹内教育長 次に、議案第7号 第2期武蔵野市図書館基本計画について、を議案といたします。

図書館長から説明をお願いいたします。

○鎌田図書館長 それでは、議案第7号 第2期武蔵野市図書館基本計画について、ご説明をいたします。

2月26日の策定委員会で計画案を取りまとめいたしました。本日は議案として提出をさせていただいたところでございます。

前回からの変更の箇所につきましては、赤字で表示をいたしております。中間のまとめからの大きな変更点はございませんが、追加した部分がございますので、そのあたりを中心にご説明をいたします。

まず、開いていただきまして、はじめに、というところを追加いたしております。内容につきましては、計画の策定の背景、計画での理念等について記載を追加しているところがございます。

大きな追加といたしましては、最後のページ、70ページ、71ページになります。

前回、ご報告をいたしましたパブリックコメントの対応方針について追加をしております。パブリックコメントの提出人数については、4人の方からいただきました。ご意見につきましては、9件でございます。対応方針について、それぞれ、記載をしているものでございます。

1番目、2番目のご意見につきましては、武蔵野市民の方、市外の方からそれぞれのご意見をいただいたところがございます。

市内の方につきましては、市外からの利用が少し多くなって心配をしているというようなご意見、それから、市外の方は市外にももう少し利用のサービスの範囲を広げてほしいというようなご意見がありました。取り扱い方針としましては、計画本文のほうでも記載をしておりますけれども、かなり市外登録者が多くなってきているという現状を踏まえまして、市民サービスの水準を確保していきたいというようなことを記載しておりますので、そのような形で対応していきたいということで、取り扱いをさせていただくこととしております。

3番、4番につきましては、その方の考える図書館の印象、それから、衛生的な空間を保ってほしいというようなご意見もございまして、そちらにつきましては美しく清潔な空間に努めるということで、計画でも全体の維持修繕に努めるということで記載をしておりますので、字句修正などはなしということでございます。

5番から9番の方につきましては、図書館の事業についての一定の提案をいただいたり、期待をしていただいたりというような内容になってございましたので、それぞれ記載のような形で、本文にも記載がございますので、字句修正はなく、そういったことを参考に進めていきたいというふうなことで取り扱っていきたいと考えております。

本文全体につきましてはの大きな修正はございませんが、赤字で修正部分を表示しておりますので、ご参考にしていただければと存じます。

簡単ですが、説明は以上とさせていただきます。

○竹内教育長 ただいまの説明にご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 この概要版の3ページ目、全体の位置づけがあるのですが、一番最後、(4)の③で、括弧の中に地域団体との「連係」とありますが、「係」は、この字でいいのでしょうか。

○鎌田図書館長 すみません。字が違って。

○渡邊委員 それを修正しておいていただければ。

○鎌田図書館長 申しわけありません、1番目のページの丸い図の中の、図書館基本計画、オレンジ色になっているところですが、こちらのところの平成31年から40年となっているんですが、括弧書きの2029年は2028年になりますので、こちらも修正をする予定でございます。

○竹内教育長 ほかはいかがでしょうか。  
渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 4ページ目、概要の最後の、事業の推進体制のP D C Aが描かれていて、非常にいいなと感じました。次のサイクルに進むときに、具体目標、指標の設定など、毎年更新していくという、そういう形になるんですか。

○鎌田図書館長 はい、毎年そのように目標を定めて評価をして、ご報告して、また、次の目標を立てるといような形に。

○渡邊委員 この場でまた報告をいただけると。

○鎌田図書館長 はい、一応そういうふうと考えております。

○渡邊委員 よろしく申し上げます。わかりやすくまとめていただいたと感じました。  
どうもありがとうございます。

○竹内教育長 市民サービスの面では、副本、いわゆるベストセラーの本をたくさん買っておくというのが図書館の中では課題になっていると思うんですが、それを抑制して、同時に、3館の地域特性を生かした選書を充実させていくということと言うと、市民サービスは結構これで、図書館の市民サービスとしては変わってくるわけですね。

それから、右側のほうにいくと、市民への適切なサービス提供として、市外登録者のサービス内容の見直しということも、先ほどの市民の方のご意見、市外の方のご意見を踏まえると、やっぱりここもサービス内容的には変わってくるのかなと思うんですが、そういったことを適切に発信しながら、計画に取り組んでいきたいと思っております。

それでは、よろしいでしょうか。

お諮りいたします。

議案第7号について、採決に入りたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 異議ないものと認め、採決に入ります。

議案第7号 第2期武蔵野市図書館基本計画について、本案を事務局提案のとおり決することに賛成ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、本案は事務局提案のとおり決定させていただきます。

---

### ◎報告事項

○竹内教育長 続きまして、報告事項に入ります。

報告事項1、教育部業務状況報告についてです。

各課長から説明をお願いします。

○大杉教育企画課長 それでは、教育企画課よりご説明を申し上げます。

1ページ目をご覧ください。

第三期武蔵野市学校教育計画（仮称）の策定でございます。こちらにつきましては、子ども生活実態調査をまとめ、教員アンケート調査も作業を行っているところでございます。

また、2回、策定委員会を行いまして、施策の体系についてご協議、ご議論をいただいているところでございます。

成果と課題につきましては、報告書がまとまったということ、体系についてのたたき台については、策定をすることができたところでございますが、再度、内容を検討して協議を進める、今後進めていくところでございます。

児童・生徒数増加への対応でございますけれども、第一小学校の地域子ども館対策につきましては、31年度の予算で学童クラブを拡充するといったようなことでの予算が市長部局から出てきたところでございます。

また、本宿小学校につきましては、学童クラブの伸び方が予想よりやや早かったことがございましたので、現在、「あそべえ」が入っている教室がございまして、その隣の部屋を、また学童クラブを増やす予定を今、努力して進めているところでございます。

今後の課題につきましては、関前南小学校の児童増につきましては、地域子ども館、「あそべえ」につきましては、課題がございまして、これは今後、まだしばらく先のこ

とでございますが、推移をよく見て、おくれのないように対応を図っていきたくと思っております。

○渡邊教育調整担当課長 2ページをご覧ください。

3番、学校施設整備基本計画につきましては、新年度の策定委員会の再開に向けて、準備作業を進めております。

4番につきましては、小中一貫教育あり方懇談会の報告を踏まえ、現在、第六期長期計画策定の中での議論に移っております。

5番、学校給食施設でございますが、桜堤調理場の建てかえにつきましては、自主設定を進めております。

それから、本宿小学校調理室を活用した親子給食につきましては、先日、建築審査会が開催されまして、建築基準法の許可をいただいたところでございます。

以上です。

○秋山指導課長 続きまして、指導課でございます。

初めに、3ページの学力及び体力向上に向けた取り組みでございます。

教育研究奨励校として、1月に本宿小学校において、2月に第三小学校において国語科の研究発表を行い、研究成果を参観者と共有することができました。また、学習指導補助員等の人材を記載のとおり配置し、授業支援を行いました。

今後の課題は、今年度1年目の研究校の進捗状況を把握し、指導主事からの指導助言を行うこと。

次年度の教育課題研究開発校を指定し、教員の授業改善を図り、学力向上を一層図ることです。

次に、道徳教育といじめ等の未然防止に向けた取り組みです。まず、道徳については3学期に1校で道徳授業地区公開講座を実施いたしました。また、11月のことにはなりますが、道徳推進教師担当者会で研究授業・協議を行い、それをもとに、各学校で授業改善を進めてまいりました。引き続き、授業改善や評価に関する研修を進めてまいります。

いじめの防止につきましては、市のいじめ防止基本方針の掲示資料の改訂版を作成いたしました。4月に各学校で各教室に掲示していただきます。

次に、4ページのICTを活用した教育の推進でございます。

ICTサポーターによるタブレットパソコン等を活用した授業の支援を89件行いまし

た。

成果と課題についてですが、市内の全小中学校においてICT機器を活用した授業は展開されていますので、効果的な事例を共有することで、さらに活用を促してまいります。また、プログラミング教育についても、推進校の取り組みを校長会等で共有していただいておりますので、今後も授業内容等に関する情報発信に努めてまいります。

次に、小中一貫した教育課程の研究でございます。

武蔵野市民科についてですが、第5回武蔵野市民科カリキュラム作成委員会を開催し、モデルカリキュラムを含む教員向け指導の手引きについて検討し、おおむねの完成を見ました。校長会等で説明も行いました。今後は手引きを全教員に配布するとともに、次年度当初に指導主事が全校に出向いて、直接、説明を行います。

次に、教育推進室による学校教育の支援でございます。

1点目は、教育アドバイザーによる学校支援についてです。記載の回数の授業観察、指導、校長不在時の学校支援などを行いました。ティーチングアシスタントやサポートスタッフも記載のとおり配置いたしました。

2点目は、地域コーディネーターについてです。2月に地域コーディネーター連絡会を開催し、東京都における学校支援の背景と現状についての講義を受けた後、意見交換を行いました。また、教員向けの地域コーディネーター活用の手引きを作成しました。

3点目は、教育情報の発信です。

教育推進室だよりを発行するとともに、調査・研究担当から総合的な学習の時間の充実に向けた資料を全教員に提供いたしました。成果と課題ですが、若手教員は着実に力をつけてきていますので、今後も臨時的任用教員や講師も含め、教育アドバイザーによる授業観察や指導、助言を計画的に行い、授業力の向上を図ってまいります。

また、地域コーディネーター活用の手引きを各学校に配布し、地域コーディネーターの一層の活用を促してまいります。あわせて、より効果的な情報発信を目指して、教育推進室から発行する情報紙の内容と配布対象について、改めて検討していく予定です。

次に、5ページの教員の多忙化解消と健康増進に向けた取り組みです。

まず、タイムレコーダーを全小中学校に設置し、出退勤時のICカードによる打刻を12月から仮稼働をするとともに、出退勤システムと休暇や出張申請を連動させるよう、準備を進めています。現在は、副校長と事務職員に説明を行っており、準備ができた学校から教員が操作になれるよう、仮稼働をしております。そして、4月から本格稼働を



してまいります。

次に、部活動についてですが、第5回の検討委員会を1月に開催し、文化部活動も含めた武蔵野市立学校に係る部活動の方針について意見交換を行い、方針を策定いたしました。内容については、後ほどご報告のところの説明をさせていただきます。

また、1月下旬に「武蔵野市立学校における働き方改革推進実施計画～先生いきいきプロジェクト」について、全教員にアンケート調査を行いました。

今後は調査結果を学校に示すとともに、新たに取り組めることを考え、「先生いきいきプロジェクト」の改訂の準備を行ってまいります。

最後に、新学習指導要領の全面实施に向けた対応でございます。

まず、小学校英語についてですが、小学校教員の指導力向上を図るため、小学校英語教育推進アドバイザーの学校巡回を98回実施いたしました。

今後は、小学校英語教育推進アドバイザーの巡回指導を推進するとともに、英語を研究テーマとしている教育課題開発校、第一小学校と大野田小学校の取り組み内容を担当者等で共有しながら、研究発表会の準備を進めてまいります。

次に、平成32年度からの授業時数増への対応についてですが、校長懇談会の意見をもとに、事務局案を作成いたしました。今後は関係者の理解を得つつ、保護者、市民への説明、周知のための準備を進めていきます。

また、新学習指導要領で求められている深い学びをテーマとした教育課題研究開発校を募集いたしました。今後、研究校を決定し、指導主事もかかわりながら研究を進めてまいります。

指導課からは以上でございます。

**○牛込教育支援課長** 続きまして、教育支援課からでございます。

6ページ、特別支援教室指導支援体制の実践的調査研究についてでございます。

こちらにつきましては、小学校の教員向けのリーフレットを作成し、教育委員会定例会、また、小学校の校長会、特別支援教育コーディネーター連絡会などで説明を行っております。こちらのリーフレットについては、来年度当初に配布をする予定でございます。

また、来年度については、小学校の特別支援教室については拠点校の増設の検討、中学校については特別支援教室の導入準備を進めていくことを予定しております。

2点目は、不登校対策の総合的検討でございます。

こちらは、検討委員会、第6回、第7回を開催いたしまして、報告書をまとめました。報告書の内容につきましては、後ほど報告事項の中でご説明をいたします。

来年度につきましては、チャレンジルームの機能強化ですとか、フリースクールとの連携について、さらに検討を進めていく予定でございます。

7ページにいきまして、学区見直しに向けた総合的検討につきましては、こちらについては、12月の教育委員会定例会において、桜野小、第二小、第二中、第六中の学区変更に関する規則改正の議決をいただいたところでございます。

12月中に関係校の保護者、また、地域団体に周知するとともに、市報やホームページでも広報いたしました。今後につきましては、その他の学区については、今回は当面、変更しないということといたしましたが、今後も引き続き、児童・生徒数の推移については注視をしております。

教育支援課については以上でございます。

○長谷川生涯学習スポーツ課長 続きます、生涯学習スポーツ課です。8ページをお願いします。全部で5つ項目がございますが、私のほうから4つ目までご説明をいたします。

まず、1つ目です。生涯学習計画の改定に向けた現状の分析と課題の検討でございます。

状況説明ですが、市民の学びに関する調査につきましては、調査が終了して報告書の作成が終わっております。

市民向けのものにつきましては、2,500通中791通の回収がありまして、31.6%の回収がございました。後ほどの報告事項の中で詳細をご説明させていただきます。

成果と課題でございますが、こちらの調査結果を踏まえまして、次年度の計画の改定の作業を行っていきたいと考えております。

続きます、2つ目です。

多様な事業主体の活動支援と連携の促進でございます。状況説明をお願いいたします。

武蔵野地域自由大学につきましては、2つ目の項目になりますが、自由大学の学長の委嘱がございました。1月1日付で、委嘱状の交付を1月9日に、西尾勝先生をお願いをしております。

また、寄附講座の後期につきましては、成蹊大学、亜細亜大学、そして、東京女子大学で、記載のテーマ、日程で行っております。

9 ページをお願いします。

学級・講座開催事業等につきましてでございます。

2 つ目の項目、お金の教室は、2 月 2 日と 23 日にそれぞれ、小学生向け、中学生向けを行いました。参加者につきましては、小学生向けの 2 日につきましては、20 名。それから、中学生向けは、10 名の応募がありましたが、当日の参加者は 6 名でした。

それから、4 つ目の丸でございますが、土曜学校の大学関係につきましては、今期は東京女子大学に英語の体験講座、それから、パイプオルガンの探検隊を行っていただいております。

成果と課題でございます。

学級講座につきましての 2 つ目ですが、お金の教室でございます。今回につきましては、前年度、中学生の方に来ていただけなかったという課題も踏まえまして、小学生向け、中学生向けで内容を変えてまいりました。小学生向けにつきましては、前年同様に、お金の数え方ですとか、双六等々を行いまして、大変楽しく学んでいただけたと思っています。

また、中学生向けにつきましては、パン屋を吉祥寺に開店するとして、資金をどうしますか。他店との差別化をどうしますか。また、それに対して投資、どのお店に投資をしますか。債券で投資をしますか。株式で投資をしますかというようなことをみんなで考えるというような形式で勉強をしていただきました。

続いて、10 ページをお願いします。

項目の 3 番目です。プレイスの管理運営につきましてでございます。

まず、施設管理でございますが、3 つ目の丸でございますとおり、1 月までの来館者の合計が 160 万 2,962 名となっております。昨年度よりも若干ですが少ない状況になっています。190 強くらいになるのかなと予想しております。

それから、生涯学習支援事業ですが、いろいろ定番のものを行っておりますが、4 つ目の項目、老壮シニア講座では、スイングにおきまして、「世界の旅—歴史を体感しつつ—」というような講演を行っております。

また、市民活動支援事業につきましては、「表現ワークショップ」を行っております。

成果と課題ですが、今後もこういった機能連携の一層の推進を図ってまいりたいと考えております。

続きまして、4 つ目の項目、11 ページをお願いいたします。

誰もがスポーツを楽しめる環境の整備についてでございます。

状況説明ですが、4つ目の項目までが工事の項目になっております。2つ目、3つ目のラグビーゴール、それから芝の張りかえについては終了しております。現在、1つ目の三種公認の陸上競技場の工事、それから4つ目、陸上競技場の観覧席、それからスコアボードの設置、これらを行っているところでございます。

それ以降が事業についての報告になります。

5つ目の項目になりますけれども、障害者スポーツの普及としまして、現在、障害者のためのスポーツ広場をユニバーサルスポーツ体験の試行を踏まえて、生涯学習振興事業団が正式実施を始めております。1月、2月と行いまして、3月4日にも実施の予定でございます。

また、8番目の項目ですが、運動習慣定着化に向けての取り組みとしまして、3月3日、明後日になりますが、ストレッチイベントを行う予定でございます。

成果と課題をお願いします。

2つ目の項目ですが、3階の観覧席とスコアボードの設置につきましては、若干、おくれが生じている状況です。状況を確認しまして、必要な対応をしていきたいと考えております。

○栗原武蔵野ふるさと歴史館担当課長 続きまして、ふるさと歴史館から、12ページからお願いします。ふるさと歴史館の管理と運営でございます。

小学校3年生の社会科見学で全校からいらしてくださいました。それに加えて、今年度は井之頭小学校6年生が中島飛行機関連の展示に、また、桜野小学校が玉川上水をテーマにしたワークショップを受けにいらっしゃいました。また、井之頭小学校や本宿小学校は、こうした社会科見学が終わった後に、学芸員が出張講座を行うことができました。

さらに、博学連携でございますけれども、成蹊学園の展示に私どもが資料を提供したり、逆に、成蹊学園さんに私どもの企画展に資料を提供していただいたりといった、こういうことが行われるようになっております。

歴史公文書につきましては、国内の資料館等で、アーカイブで中島飛行機関連の資料を現在、収集中でございます。

指定文化財につきましては、「秋本家文書」の指定に向けて、最終的な詰め段階に入っております。

また、読売新聞などに中島飛行機関連の情報が掲載されました。

成果と課題でございますが、特にこの中島飛行機展示でございますが、映画会を行って、100名以上を越す来館者が訪れたことでありますとか、上智大学の学芸員の養成課程においてこの展示が取り上げられまして、学会的にもなかなか充実した内容になっておりました。

また、今回、学校の社会科見学でございますけれども、今までになかった形で事前に、わかりやすい武蔵野の歴史という小冊子を配って学習していただき、最後に展示の図録をお渡しいただくという、事前と事後の学習にも資料をお渡しすることができるという、新しいシステムができました。

課題でございますけれども、公文書企画展、文化財等により一層の整備等を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○鎌田図書館長 それでは、図書館をお願いいたします。14ページになります。

図書館基本計画の改定でございます。策定検討の経過につきましては、状況説明に記載のとおりでございます。本日、議決をいただくことができ、ありがとうございます。

計画には、理念の設定、目指す方向を示したというところと、3館の役割も整理いたしました。この役割を果たすために、中央図書館の管理運営形態については、さらに検討を進めてまいります。

図書館資料収集保存でございます。資料の受け入れ状況につきましては、記載のとおりでございます。

中央図書館の書庫の稠密化工事が完了いたしましたので、書庫内の資料の配置につきまして見直しを行い、移動を準備しているところでございます。

続きまして、利用対象者の状況、特性等に応じた図書館サービスの充実でございます。実施事業につきましては、記載のとおりでございます。

子ども図書館文芸賞につきましては、作品の質の向上につながるような工夫を、またさらに考えていきたいと考えているところでございます。

最後に、吉祥寺図書館の管理と運営でございます。来館者につきましては、相変わらず、順調に推移していると考えております。

指定管理者によります事業の企画、運営につきましては順調に進んでいると評価をしているところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 ただいま各課長から説明がありました。

ただいまの説明に質問、ご意見がありましたら、お願いいたします。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 3 ページ目の指導課の1番、②ですけれども、学習指導補助員は随分入れていただいている状況だとわかりますが、学校による違いや、特徴があるのか。それとも均等に入れたのか。もしわかったら教えていただきたい。

その下の2番目、状況説明の①で、2月9日、小学校1校について、これは学校名を明示したほうがいいと感じました。せっかく協力していただいていますので、ぜひ学校名を入れていただくといいと思います。

それから、指導課の5 ページ目の6番、成果と課題の②で、部活動指導員モデル校を決定するとあります。これはこれから決定するのでしょうか、それと部活動指導員の募集というのは、連携したものなのかどうか、お聞かせください。

その次の項目7番、状況説明③で、新学習指導要領、深い学びをテーマとした募集を行ったということですが、自主的に出しているとは思いますが。何校応募があったのか、教えていただきたいと思います。

9 ページで、先ほどお金の教室のご報告をいただいて、中学生も来ていただいてよかったと思います。前回、山本委員から続けてやってくださいとお話がありましたが、参加者の反応はどうでしたか。先ほど、教育部長からも議員から、起業家教育に関する質問もあったということですので、その辺と連携できるのではないかと思います。

パン屋を開店するとき、どんなことをやっていったらいいのか、お金をどのように回していくのかとか、多分講座でとりあげたと思いますが、反応はどうだったでしょうか。

12ページのふるさと歴史館、12校全校の成果が出たということでほっとしました。こういう学校との連携を密にしていき、武蔵野市民科ともつながるところがあるので、今後に向けて検討していただけるといいと思いました。

13ページ、「わかりやすい武蔵野の歴史」をつくられたということで、これは配付ただけのものがありますか。参考に見たいと思いますので、よろしくをお願いします。

16ページの最後、吉祥寺図書館の来館者が非常に増えてよかったと思いました。増え過ぎると困るということもあるかもしれませんが、非常に利用しやすい場所で、皆さん

に気づいていただけたのだらうと思いました。

最後に、細かい話で申しわけありませんが、小学校とか中学校の名称は、フルネームで書くという方向で決まったと思いますので、略称で書かず、ぜひそれをしていただきたいと思います。

以上です。意見も感想も含めて。

○竹内教育長 指導課長。

○秋山指導課長 今、お尋ねいただいたことを、順番にお答えさせていただきたいと思います。

学習指導補助員等につきましては、学校で、予算の段階で、必要と思われる時数を学校裁量予算で積んでおります。よって、それぞれの学校によって、使い方、そして時間数も、もともと違ってきます。こちらから一律に何時間というふうにはしていません。

逆に、理科指導員については、こちらは1学級何時間ということで配置をさせていただいているものでございます。

それから、道徳授業地区公開講座は3学期は1校関前南小学校だけでしたが、2学期にたくさんありまして、そこには学校名を入れておりませんでした。それにあわせた形で、このような記載をさせていただいているところでございます。

それから、部活動指導員のことですが、こちらはモデル校の応募をいただいて、部活動指導員は、市の職員として雇用するため、必ず公募を行うということになりますので、連動していると言えば連動しております。

それから、深い学びをテーマとした教育課題研究開発校のことですが、こちらは田村学先生にご指導をいただきたいと思ひまして、ただ、なかなか日程のとれる先生ではないので、先に、田村学先生の日程を幾つか押さえさせていただいて、そこに研究会を当てていただけることを、まず1つ条件にして、募集をさせていただいたところでございます。

現在2校からご応募いただいて、いろいろと条件を整理し、どちらかに決めようと思っております。最終的には1校でございます。

○長谷川生涯学習スポーツ課長 お金の仕組みについて、ご質問をいただきました。まず、起業教育との連携ですが、可能性はあると、今回、見ていて感じました。ただ、今回は、切り口が社会の中で、お金がどのような役割をしているかという視点を主体にして、パン屋から、そこに対するお金、資金というような、学び方をしましたので、今後、起業

に特化して、もしくは、そこに寄って、という形は考えられるではないか思っております。

また、反応につきましてですけれども、帰る間際のところで私のほうで参加者にお声がけをして、感想を伺っております。ほとんどの方が「とても楽しく学べた」というお話をしてくださいました。

ただ、やはり、求めているレベル感をどうしてもどこかで整えて、講座をつくる必要がある関係で、一部の参加者については、もう少し、間接金融で自分が預けたお金がどういうふうに社会にめぐって、どういうふうな役割をしているかというところを突っ込んで学びたかった、というような感想を言ってくださる方もいました。なかなか、レベル感を整えるのは難しいなと思いましたが、反応は「とても楽しかった」ということをおっしゃっていただいております。

○渡邊委員 学年はどうでしたか。

○長谷川生涯学習スポーツ課長 学年は3年生が1名、2年生が2名、あとは1年生です。

○渡邊委員 2年生を中心にとか、人数が増えてきたらそのように実施したほうがいいのかもわからないですね。

○栗原武蔵野ふるさと歴史館担当課長 私どもの学校見学でございますけれども、昨年も全校いらしていただいたんですけども、ほかの学年が来てくださるということ、事後に来たというのが今回非常に新しいところですけども、来年度に向けても、さまざまなことを学校と相談しながら、いろいろな学年にいらしていただけるような形で努力していきたいと考えています。

わかりやすい武蔵野の歴史のほうは、お送りするようにいたします。

○竹内教育長 図書館は、これはご意見ですね。

ほかにはございませんか。

山本委員。

○山本委員 5ページの教員の多忙化解消、というところですか。一昨日、清水委員と文科省の初等中等の研修を受けてきました。それは全国の教育委員会連合会の研修だったんですけども、その中で、やはり、働き方改革のことが大きく取り上げられていました。いろいろな資料もいただいたりして、副校長、教頭のリアリティショックというような勉強もしました。皆さんが抱えている問題のうち30%以上のものは、これは断トツで85%というのが文書処理の多さ。次が施設管理や会計管理などが大変であることで64%。



51%が教職員に対する指導、依頼等の難しさ。31%が保護者、地域住民とのトラブル処理が難しいこと。30%が地域保護者とのかかわりが多いこと。というふうになっています。

最後の1%というのに、教育委員会との関係というのが入っていましたが、少なくともよかったです。この1月に、五中のナイトハイクのイベントに参加させていただき、刀根校長先生と清水副校長先生とご一緒に、往復、歩くことができました。その中で、刀根先生ともいろいろお話をしましたが、清水副校長先生から、やはり、副校長の多忙化ということ具体的をいろいろ教えていただいた中に、文書処理の多さというのが本当に年々増えていくということ伺いました。昔と違って、コンピューターで書類が添付されてワッと送られてきて、それを学校は全部紙化して取っておかなくてはならないということらしいのです。今後その文書処理のことをどのように考えていったらいいか。過剰になっている部分をどう解決したらいいかということを入り口のところでいいので教えていただきたいと思いました。

それから、生涯学習の9ページのお金の教室のところ。お金の教室の立ち上げのところに参加させていただいたので、今回小学校、中学校の部、随分、レベルが上がっていること、バージョンアップしていることを感じました。

それで、子どもたちの感想を聞いても、関心のレベルも上がっているなということも感じて、「おお、なるほど」と思いました。

私たちの市民生活も教育委員会活動、学校の活動もお金の発生しないボランティアに支えられていますね。その活動のことと、お金のことは全然無関係かというところではなくて、無償で支えていく働きというエネルギーとお金のエネルギーは、両方の筋として学んでいく必要があると思っています。

特に、私のようにフリーランスで働いている者からすると、お金のことばかり考えているとちっともお金が入ってこないという感じなんですね。例えば、学校教育をボランティアで支えてくださっている地域の方たちの働きを本当に感謝してたたえなければいけないということもあるけれども、そのことも1つのエネルギーで、何かがたまっていくという、その大切な実感を、このお金の教室でも子どもたちに伝えていく必要があると私は感じているんです。武蔵野のレベルだからこそ、それを期待しています。

それから、15ページで、子ども図書館文芸賞についてです。いろいろお世話になりました。私はこの子ども図書館文芸賞のA部門、小説とエッセイの部、その審査をさせ

ていただいています。

その作品の質が少し低調だったんです。ただ、私が思ったのは、昨年までは魔法使いとか、お化けとか、そういうものがたくさん出てくるような作品が多かったのが、日常生活に視点を向けた作品が多くなっていたことは評価しました。

みなみらんぼうさんは、元武蔵野市の教育委員でもありますけれども、感想として、詩がとても低調なんだよね、数も少なくなっているし。それは、多分、みんながコンピューターだったり、ネットのゲームみたいなことに心を奪われているということも影響していると思って、そのことはちゃんと調べたり、今後、考えていくようにしてほしいと、お話をいただきました。

それがすぐにどういうふうに関活動につなげてゆけるかわからないけれども、詩の世界というのも人生にとってとても大事なものなので、そこを見守っていくという活動を教育委員会としてもしてゆきたいなという希望を持っています。

それから、学校ごとにいうと、四小の児童が1人、五小の児童が2人、桜野小の児童が4人、入賞しているんです。五中の生徒も1人。

私は学校のムードというのも、とてもたたいと思っています。こういう作品というのは、家庭もそうだし、自分のムードもそうなんですけれども、学校生活のムードにもとても影響を受けると思っています。そのことは先生方や学校長にも申し上げて、「おめでとうございます」とお伝えしたいような気持ちでいるんですけれども、このことを私たちももう少し深く捉えてもいいなということも思ったんです。

以上です。

○竹内教育長 では、多忙化のほうからお願いします。

指導課長。

○秋山指導課長 多忙化の中でも文書処理のお話をいただきました。国や都から来る文書は年々増えている、少なくとも、減ってはいないなというのは実感として思っているところです。

教育委員会、指導課としては、学校に国から周知せよと来たものは下ろさないわけにはまいりませんので、もちろん、周知はいたしますが、指導課のところで回答できるものは指導課で回答するとか、減らせるところは極力減らすような努力はしているところでございます。

また、副校長事務補助も入れておりますし、その時数も来年度増やしていく予定です

ので、学校の中で、副校長が絶対にやらねばいけぬものももちろんありますけれども、補助にやらせて、最後、確認すればよいという、そういう仕事もかなりあるのではないかなと思っておりますので、そこは学校の中で、どういうふうに役割分担をしていくかということは、もう既に検討されていると思いますし、副校長会では昨年度とか今年度もそうですけれども、そういう研究もしておりますので、そういう研究成果を生かしてもらえれば、というふうに思っています。

調査の回答は文書保存年限というか、そういうものがございますので、それについては、やはり紙で保存していかざるを得ないというところがございます。

○竹内教育長 生涯学習スポーツ課長。

○長谷川生涯学習スポーツ課長 お金の仕組みについてでございます。おっしゃるとおり、前回からお金について考えることは決して汚いことではなく、きちんと考えることは大事なことである。社会をこのお金が支えているという側面をきちんと学んでいきましょうというような話を続けてきたところでございます。

ただ、やはり、おっしゃるとおり社会というのはお金だけで支えられているものではありません、というような視点は必ず必要だと思っています。そのお金の仕組みの中で、そういった視点についても言及していくか、また、別の土曜学校の中でそういったところについて学んでいくか、いろいろな方法を考えていきたいと思っています。

欧米では、ボランティアは成功者の証などとも言われますし、そういったこともきちんと、子どもたちに学んでいっていただきたいなというふうに思っています。

ありがとうございます。

○竹内教育長 ほかは、いかがでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 4ページ目ですけれども、教育推進による学校教育の支援というところで、成果と課題のところ、②の教員向けの「地域コーディネーター活用の手引き」を学校に配布している。まだ、制作中ということで、よろしいですね。

○秋山指導課長 印刷できましたが、まだ学校には配っていません。

○小出委員 ちょっと興味があるので拝見させていただきたいなと思っています。よろしくお願いいたします。

それから、簡単な質問ですけれども、①の学校経営への助言や管理職不在時の学校支援ということで、校長、副校長が両方ともいなかったということですよ。そのときは、

やはり支援課の方が入って、補助するということでもいいんですか。

○秋山指導課長 管理職が2人ともが不在になるときに、学校のほうからご要請をいただければ、教育アドバイザーがその学校にその時間いて、何か起こってしまったようなときには、主幹教諭の相談相手になったり、アドバイスをするということです。

○小出委員 ありがとうございます。

以上です。

○竹内教育長 清水委員、お願いします。

○清水委員 4つお願いで、1つ質問です。

まず、1ページ目ですけれども、児童・生徒数増加への対応ということで、武蔵野市は本当にきめ細かく進めてくださっているなということを感じています。

特に、学童クラブは、定められた1人当たりのスペースというのがあるので、それを確保するために、必要とあれば増築をすとか、場所を確保するというのを進めているわけですけれども、結構いっぱいになってきている学校が多いだらうなと思います。

例えば、一小あたりですと、聞こえてくる話によると、校庭をそれに当てるというように私は聞いたんですけれども、その教育環境をできるだけ落とさないということはずごく大事なことなので、お金で言うと、ここだとこれぐらいで済むからというのではなくて、教育的な環境をできる限り維持する方向で考えを進めていってほしいと思います。

それから、2点目、学校公開に足を運んでいて、いろいろな学校の授業を拝見しています。その授業を見ていて、本当に授業規律も非常にしっかりしていて、そして、先生方の指導が、見ていると共通点を見出せるような学校というのがあります。

非常に成果を上げていると感じるわけですけれども、3ページに校内研修体制の充実ということで、いろいろ学力向上に向けた取り組みが書かれているわけです。

教育課題開発研究校だとか、市の研究奨励校だという研究はとてもいいので、これからも進めていただきたいと思うんですが、もう一方で、各学校で非常に授業力の高い教員がいますから、そういう先生をもとに、授業改善、新しい学習指導要領に向けて授業改善というのは急務です。それを各学校で進めていけるような、そういった取り組みを、ぜひ、働きかけて、進めていただきたいなと思っています。

それから、3ページの下の方に、この間、出されましたいじめ防止基本方針を、4月に各教室に掲示すると書かれています。掲示しただけではだめなんですよ。掲示すると、教室にはいろいろな掲示物がありますので、子どもたちはそれに余り関心を示さな

いかかもしれない。掲示して、最初に子どもたちでこれについてどう考えようかというようなことを、子どもたちが考える機会をつくっていくということが大事だと思うので、せっかくなつくたものを生かせるようにしていただきたいと思います。

それから、5ページ目、多忙化解消のためには、絶対的な仕事量を減らしていく必要があると思うんですが、これはなかなか難しいことだろうなと思います。少なくとも、多忙感というものは解消させてほしいなと思います。

そこで、教員一人一人が自信を持って、モチベーションを高めていけるような方策をぜひ考えていただきたいと思いますと思っています。これはいろいろあるかなというふうに思いますけれども、よろしく願いいたします。

それから、これは質問ですけれども、11ページに、誰もがスポーツを楽しめる環境の整備ということで、状況説明の一番上に、陸上競技場、第3種公認検定のための改修工事とありますけれども、第3種公認検定、これは具体的にいうとどんなものなのかということをお教えいただきたいなと思います。

それから、最後ですけれども、12ページに、今、ふるさと歴史館を利用している学校がどんどん増えていって、非常にいいことだと思っています。

私も現職時代に、3年生の学習について行ったことがあります。あとで担任と話をしたときに、特に授業の流れの中で、こういうふうに活用したいという願いをしてないと言っていたんですよ、その担任が。それじゃだめだと。

授業の流れの中で、歴史館の見学をどういうふうに生かしていくか、どういうことを中心に子どもたちに学ばせるかというのは、学校、学年の主体性だと思います。そういったものをぜひ学校に聞いてもらいたいなと思います。ここで、特に学びたいことはどんなことですか。そういったことを学校が考えて見学に臨むのとそうでないのは大分違うと思いますので、ぜひ、そういったことを各学校に聞いて、各学校に考えさせて、そして授業の流れの中で見学が生きるように、進めていただきたいと思います。これはお願いです。

以上です。

○竹内教育長 順次、お願いします。

教育企画課長。

○大杉教育企画課長 一小の児童増対策でございます。一小は校地が一定、限られていますので、最新の案ではトラックにかからないような形で、今までの学童と隣り合わせの

ところで、検討しているところでございます。学校の教育活動には本当に最小限の影響で済むと考えているところでございます。

○清水委員 ありがとうございます。

○竹内教育長 指導課長。

○秋山指導課長 授業力の高い教員を活用した研修等をというお話をいただきました。委員がおっしゃるとおりだと思っています。校長先生方とヒアリングしますと、既に各学校で、OJTの中で、かなり工夫をしながらやっている様子がわかります。

また、教育委員会としては、なるべく市内にいる指導教諭の授業を、せっかくですので、公開のときに見るようにということで、お勧めをしています。

それから、いじめの防止の資料は、委員がおっしゃるように、当然、掲示するだけではなくて、掲示する際には、子どもたちとそれをもとに話し合っただけのものと思っておりますが、配るときにはそのようなことを申し添えて配布をしたいと思っております。

多忙化解消につきましては、前にも申し上げましたが、特効薬があるわけではないと思っていますので、今、取り組んでいること、そして、ほかに何かできることはないかということを考えながら、地道に積み重ねてまいりたいと思っております。

○竹内教育長 生涯学習スポーツ課長。

○長谷川生涯学習スポーツ課長 3種公認の工事についてのご質問でございます。

こちら、陸上競技を行うに当たっての公認でございます。1種から4種までの陸上競技場の種別がございます。それぞれ、細かい設定がございまして、おおむね3種につきましては、地区の加盟団体が公式競技会ができるレベルというようなことで設定されておりまして、全天候型の8コースの陸上競技のコースがあつて、全ての投てきができるというようなところで、それを整備する必要があるということでございます。

○竹内教育長 ふるさと歴史館担当課長。

○栗原武蔵野ふるさと歴史館担当課長 委員がおっしゃった、自分で考えていただくということは本当に大切なことだと思っております。今年もさらに学校のニーズに合わせて細かくやっているの、余りにもやり過ぎて、どうかねみたいなところもあつたので、学芸員にもそういったことの大切さを改めて話すとともに、一方、先生方の中にはすばらしい先生もたくさんいらっしゃるんですけども、「去年と同じでいいですよ」という人もいらっしゃるの、今度は本当にもっと真剣にこちらもいろいろ向き合つて、より一層いい展示にしてまいりたいと思っております。

ありがとうございます。

○竹内教育長 ほかには、よろしいでしょうか。

それでは、この報告事項につきましては、了承されたものといたします。

次に、報告事項2、平成31年第1回市議会提出補正予算についてです。

教育企画課長からご説明をいたします。

○大杉教育企画課長 それでは、平成31年第1回の市議会定例会提出補正予算につきまして、教育企画課長より、一括してご説明を申し上げます。

今回、市議会定例会のほうに提出しました補正予算についてでございますけれども、これにつきましては、新たに事業を何か起こすということではなく、当初予算の中で計上された予算の中でいろいろな契約等で差金が生じた、執行しなくて済んだ不用額、そういうものを減額するといった内容が多い内容でございます。

1ページ目の歳入の補正予算でございます。こちらのページにつきましては、増額する内容のものがほとんどでございます。ブロック塀や体育館の空調設備の交付金といたしますのは、昨年大阪の地震以後、国や東京都で創設されたものであったり、体育館の空調につきましても昨年の夏の暑さ対策ということで、急遽、東京都でも力を入れた経過がある中で、当初予算ではないものでございました。

地域子供の未来応援交付金につきましては、子ども生活実態調査の補助金として交付申請したところ、交付が決定したため、補正増したものでございます。

また、2ページ目、学校支援ボランティア推進協議会事業費補助金につきましては、教育推進室の関係等の予算でございまして、これが東京都の補助金に該当するというところでございます。

また、セカンドスクールにかかわる予算につきましても、今回、国の補助金が該当するというところで計上されたものでございます。

3ページ目の歳出の補正予算でございます。契約差金以外のものでございますと、上から2つ目の学校施設整備基金積立金で、10億357万7,000円でございますけれども、これは利子収入が、357万7,000円、当初予算よりも多く発生しております。市全体の補正予算の中で、一定、不用額というものが生じますといずれかの基金に積み増すということを行います。

学校については、今後、改築等が見込めるため、10億円をここに積み立てるというようなことでの内容でございます。

額として大きいものは、3ページ目の上から5つ目で、大野田小の校務センターの工事、四中プールサイドの工事の入札が不調で未実施となったことによる、契約差金でございます。

もう一つ、減額の内容としてありますのは、例えば、5ページ目で、図書館、人事課予算がございます。こちらにつきましては、職員人件費を減額するという内容でございます。これはどうしても当初予算を組むときに、前年の秋の時点で、その職員の人数、配置で見込むものですから、実際にその年になりまして、人事異動等によりまして、どうしても足りなくなったり余ったり、ということがございます。

説明につきましては、以上でございます。

○竹内教育長 ただいま説明がありました。ただいまの説明に、質問、ご意見がありましたら、お願いします。

よろしいでしょうか。

それでは、この報告事項につきましては、了承されたものといたします。

次に、報告事項3、平成31年度教育費予算案についてです。

教育企画課長から、説明をお願いします。

○大杉教育企画課長 それでは、平成31年度の教育費予算（案）につきまして、教育企画課長のほうから、一括してご説明を申し上げます。

まず、1ページ目でございますけれども、これは、現在、平成31年度の予算案につきましては、市長から市議会に予算審議をお願いしているところでございまして、今後、予算特別委員会等で審議が行われるところでございます。

1ページ目は全体の総括表でございます。

教育費につきましては、84億1,532万4,000円ということで、前年度と比べまして9億8,874万3,000円、13.3%の増加でございます。

主な内容でございますけれども、大きいところで申し上げますと、上の教育総務費、教育指導費でございます。これは31年度、教科用教科書の採択の対応で、教師用の図書、指導書を購入する予算であったり、市の講師、あるいは、副校長事務補助の拡充予算の増加でございます。

小学校費の学校管理費で、約2億3,000万の増がございますけれども、これは体育館の空調の設置に係る費用が、2,900万程度、三小給排水の工事が1億8,000万。校舎の照明のLED化ということで、境南小で6,200万。児童増の対応ということで、幾つかの



工事で6,100万。こういった工事費が新たに計上されているところでございます。

中学校費の学校管理費につきましては、5,400万近くの増でございますけれども、大きいものはブロック塀の対応、体育館の空調の導入の費用。中学校については、教育相談室という、普通教室の半分ぐらいのサイズの相談室がございますが、いまだに空調が入っておりませんでしたので、31年度は全校、導入するための費用を計上いたしました。

特別支援教育費でございますけれども、大きいのが中学校の特別支援教室を整備する費用、これが5,000万円強、不登校対策を総合的に進めるということで、1,800万程度予算を計上しております。

学校給食費でございますけれども、5億5,000万ほど、大きいのは桜堤共同調理場の建設に、31年度は着手する年になってまいりますので、その工事費等でございます。

それぞれの費目の内容につきましては、2ページ目以降に主要な施策予算の一覧ということでございますので、こちらをご覧くださいと思います。

説明につきましては以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問、ご意見がありましたら、お願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、この報告事項につきましては、了承されたものといたします。

次に、報告事項4、武蔵野市子ども生活実態調査の報告についてです。

教育企画課長から説明をお願いします。

○大杉教育企画課長 それでは、平成30年度武蔵野市子ども生活実態調査の結果についてでございます。概要版がございますので、そちらのほうをご覧くださいと思います。

この調査につきましては、5年ごとに学校教育計画の改訂に先立ちまして行っているものでございまして、また、これは子どもプラン武蔵野の策定のための基礎資料という意味合いもございます。

調査の対象につきましては、公立小学校の4年生、6年生、及び中学校2年生と、その保護者全員が対象でございました。

昨年6月から7月にかけて、学校で児童・生徒につきましては学校の場で、保護者につきましては児童・生徒から持ち帰っていただいた質問紙をご自宅で回答していただき、また、学校を經由して集めたということでございます。

回収状況につきましては、児童・生徒については96.3%、保護者につきましても89.6%ということで、極めて高い回収率で実施ができたところでございます。

今回の調査につきましては、前回の調査と比べまして、一定の質問項目の入れかえを行いました。趣旨といたしましては、1つは、家庭の養育環境をより細かく見ていこうということで、放課後の過ごし方、居場所について、少し深掘りをした質問をしたというところですか、食事の関係を今回新たに加えたということもございました。

また、学力観が広がって変わったところでは、児童・生徒の今後の希望と自己肯定感、あるいは進路、将来に向けての希望といったようなところも今回、新たに調査で加えたところがございます。

また、1つ、子どもプランとの関係でいいますと、子どもの貧困について、市長部局が中心になりまして検討をしている状況がございますので、今回は新たに保護者の方に経済的な状況について突っ込んだ質問を新たに行いました。

主な質問と回答は、概要版の1ページ目、「学校で楽しいと思うこと」というところでは、5年前と同じような傾向でございます。「仲のいい友達がいるから、遊べるから」というところが多うございました。

1枚めくっていただきまして、2ページ目、3ページ目のところでございますが、「嫌だと思うこと」、これは自由記述でございます。これをある一定、分類でカテゴリー化しまして、重立ったものは「勉強がわからない」から「テストがあるから」といったようなところございました。

3番目の「学校の授業がわかりますか」というのは、新しい設問でございます。こちらにつきましては、全体的に9割方を超えるお子さんたちは、「大体わかる」ということで書かれています。

また、放課後の過ごし方につきましても、新たなところですが、「勉強」とか「遊ぶこと」ということで、そういう傾向がわかりました。

3ページ目のところでは、食事のことについてを聞いております。基本、家族ではございますが、「1人で食べる」という回答がやはり年齢が上がっていくにつれて当然のことながら倍々でふえていくということがわかりました。

悩みについての相談でございます。傾向は5年前と同じではございます。やはり年齢が上がってきますと「勉強」や「進路」といったことが増えていき、特にないという回答がどんどん減っていく、そういうことございました。

7番目のところ、自己肯定感、自己有用感というところがございますけれども、新たな設問でございまして、これはやはり年齢が上がるがるとどんどん低くなるという傾向

でございます。

4 ページ目でございますが、保護者向けのアンケートでございますが、「学校の教育活動に特に望んでいる」というところでは、これも5年前と同様でございますが、一番高いのは「学習意欲や関心を高める教育に力を入れてほしい」、「心の教育をもっと高めてほしい」というところでございますが、中学生になりますと「学力を高めてほしい」、「英語力を高めてほしい」、「進路指導に力を入れてほしい」、こういったところが増える傾向でございます。

学校の改善、充実に向けた施策への関心というところでは、やはり希望といたしましては、習熟度別少人数指導という希望が一番高いというところは変わりはありませんが、今回、回答の選択肢に出ました教職員の多忙化への対応というところが、2番目に、保護者としても大切に考えているというところでございます。

5 ページ目につきましては、世帯収入による比較ということで、手取りの収入を保護者の方に聞いております。枠で、100万未満とか100万から300万、200万刻みくらいで聞いております。そこで300万というところで切りまして、それをクロス集計いたしました。

そこでの違いがはっきり出ているところが幾つか紹介しております。一番上の進学に関しての考えのところでございますけれども、手取り収入300万未満の世帯につきましては、「進学はさせたいけれども経済的困難」だと考える保護者の方が7割いる。これは300万以上の世帯の方が13%しかいないというところでは、極めて特徴的な差が出ております。

また、その下のところでは、重要だと思う支援につきましては、300万以上世帯と比べまして、300万未満世帯が多いのは、読み書き計算などの基礎的学習支援をしてくれるところ、これが非常に、3倍ぐらい違うというところがわかりました。

6 ページ目でございますが、「保護者にとって必要または重要と思う支援」というところで、特徴的なところといたしますのは、子どもの就学にかかる費用についての希望が非常に高く、住宅を探す支援が高いところが、300万未満の世帯の特徴的なところでございます。詳細はまた報告書のほうをご覧くださいと思います。

説明につきましては、以上でございます。

○竹内教育長 ただいま説明がありました。

ご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

○清水委員 まず、これだけのたくさんの項目を集計して、まとめをするのは非常に大変だったろうなと思います。ありがとうございます。

こちらは冊子の、調査結果の概要というところの中で、児童・生徒の回答、4ページです。ずっと読んでいて、「えっ」と思ったのが、2つ目のポツですけれども、近所の人との挨拶は「自分から進んで挨拶する」が5割。平成25年度調査との比較では5ポイント程度減少している。先生との挨拶は「毎日する」が約3割ということで、やけに少ないなと思ったんですよ。

こちらは15ページにその結果が出ているんですよ。15ページを見て、理解したんですけども、「毎日する」が約33%。「することが多い」が30%、「ときどきする」が30%です。これを全部合計すると90%を超えているんですけども、学校は、例えば担任と挨拶するなんていうのは、例えば登校してきたときにすれ違えば挨拶するんだけど、すれ違わないで教室に入っちゃえば、みんなで朝、授業を始めるときに「おはようございます」と、それは余り挨拶というふうには捉えないんでしょう。

だから、出会う、出合わないということ言えば、出会えば子どもたちはほぼ挨拶していると、私は思います。

ですから、その辺も考えると、3割というふうにすると、「なんだ、学校じゃ余り先生と挨拶してない」と受け取られてしまうのではないかと感じました。

それから、「学校が楽しいところですか」という質問はないんです。例えば、ちょっと似たような質問はあるんですけども、「学校で楽しいこと」というのは聞いているけど、学校というところが「楽しいところ」なのか、あるいはそうになってないのかという質問がないんですけども、そういう質問というのは私、結構大事なのかなというふうに思います。

それから、5ページの勉強についてというところの1つ目のポツの最後に、25年度調査と大きく変化しているのは、パソコン、タブレットを使うということなんです。これは非常に増えているんですが、これで一体何をしているのかなと、思ったんです。そこまでは突っ込んだ質問がないんですけど、パソコン、タブレット、これからもどんどん増えていくだろうなと思うんですけど、この子どもたちが一体どういうものに使っているのか知りたいと思いました。

それから、最後ですけども、5ページの心や体についてのずっと一番下のポツで、「学校で勉強をもっとわかりやすく教えてほしい」については、全体として4割半ばが

「とても思う」、「そう思う」と回答している。中学校では5割半ばとなっているということなんです。

これは、どう考えていくのかなと思うんですけども、もう一方で、保護者に聞いている調査の中身では、7ページの②の学校への要望などについてです。保護者全体では学習意欲や関心を高める教育が約6割となっています。これは先ほども、各学校の授業というところでお話をしたんですけども、新しい学習指導要領で主体的、対話的で深い学びということが出されてきていますけれども、これを進めていくためには、授業を大きく変えていく必要があるということを感じています。

それを子どもたちも期待しているし、保護者も期待しているんだということが、やはりこの調査から読み取れるというふうに思うわけです。そういう意味においても、武蔵野市の子どもたちは非常に力のある子どもたちが大勢いますので、そういう子どもたちの力を引き出して、伸ばしてやるような授業をしていくというのは、これから本気で取り組まなくちゃいけない課題なんだろうなということはこの調査からも改めて思った次第です。

以上です。

○竹内教育長 教育企画課長。

○大杉教育企画課長 それぞれ委員ご指摘のとおりと思っております。

パソコン、タブレットのところでは、これは深掘りしている質問がないので、勉強として使っているというところでは出てきているのですが、一方、若干気になっているデータがございまして、クロス集計をしているところで、110ページをご覧いただきたいのですが、放課後の過ごし方という設問と、できることがたくさんあるということをクリックしている分析をしております、110ページのアの小学校4年生のところ、6年生も同じ傾向ですが、放課後の過ごし方で、できることがたくさんあるというところ、「とてもそう思う」、「そう思う」というのが、一番高いのが4年生で、スポーツを放課後しているお子さんが73%くらいで、一番高い。

一方、その比率が一番少ないのがパソコン（インターネット）をしている、放課後そうやって過ごしているということが、母数は36人で少ないですが、ここは比率が一番低いということがありまして、これは6年生も同様の傾向ということがありますので、パソコン、インターネットというのはそれぞれ功罪が非常に分かれるところなのかなというふうに考えているところでございます。

ご指摘がありましたことは、現段階ではこれ以上はできないですが、また、これは次回の調査なり、今後の策定委員会の中でまた少し検討していきたいと思っております。

○清水委員 都の学力調査とか全国の学力調査に、質問紙があつて、いろいろと生活実態を聞く内容があるんです。その中にも、やはり家でスマホだとか、パソコンだとか、そういうタブレットを使う時間はどのぐらいありますかとか、そういうことも聞いている項目があるんですよ。

そういうのと武蔵野の子どもたちの姿を比較すると、武蔵野の子どもたちは、東京都のほかの地域や全国と比べても、この辺少ないです。だから、そういう他区市とか他県と比較すると、武蔵野の子どもたちはこういうところがいいだとか、そういうのもわかるので、全部の項目ではなくていいので、やはり顕著なところだけでも学力調査のそういう生活実態調査のようなもので武蔵野市はこういうところがいいですよ、みたいなことが出されるといいと思いました。

○竹内教育長 渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 冊子をまとめるのは、大変だったと思います。

非常に冊子が厚くて、どのように解釈すればよいのか難しいところがありました。気がついたことが幾つかありましたので、申し上げたいと思います。

先ほどの清水先生と重複しますが、挨拶は必ずやっているだろうと思うのに、結構少なかったのはなぜだろうと気になりました。他にうまい聞き方があるのかもしれない。毎日、学校の授業の始めに挨拶をしていますから、当然100%かと思ったら、そうでもなかったので、「あれっ」と思いました。

冊子の41ページですけども、細かい点なのですが、これは多分、数字間違っているんじゃないかと思うんです。上の25年度の数字で、4項目、「ぼうっとしているとき」が全体で37.4%となっているんですけど、その下の数字を見ると、そういう大きい数字はないので、これは多分、左側の数字をそのまま持ってきてしまったのかなと。多分これよりも少なくなるはずなので、20%とかそれ前後になると思います。もう一回確認していただけるといいと思います。

クロス集計が104ページから幾つかあるのですが、クロス集計は単に主計してみたというだけでなく、何か目的があつて行方。仮定に対してどうだったということがあつてと思うのです。クロス集計をやっている意識、動機、それをもう少し明確に書いておいていただけるとありがたい。

そうすると、この結果をどのように読んだらいいかというのが見えてきます。

始めのほうは放課後のことと、それから、居場所が欲しい。放課後どのように過ごせたらいいのかということ意識していると思うのです。

107ページに、居場所が欲しい、上から4つ目、nが4、女子ではnが3で、特徴が出ています。男子は割と居場所が欲しいとは思ってないけれど、女子は結構思っている。

確かに、「あそべえ」をについて、知人から聞いている話でもあるのですが、「あそべえ」では、女の子のほうが比較的多いということです。7割から8割くらい。たまたまその小学校はそうなのかもしれませんが、「あそべえ」で、どのようなことをやっていったらいいのかとか、そういうところにも関係してくるので、集計の目的を意識していただけると、こういうデータが使えるのかなと思いました。

その次の109ページ、今回、差しかえがあったので、「あれっ」と思ったんですが、データが違っていた。中学校2年生で、父に悩みを相談している数多くて、父親の出番が増えたのかなと思いましたが、そうではなかったのですね。それが今日わかったので、ちょっと残念でしたが、もう一回見直してみたいと思います。

小学生に関する調査報告書でも、クロス集計をやっているのですが、そこでは欄に色をつけているんですね。多分、順位が高いものと2番目のものに色をつけていただいていると思いますが、このように単に数値だけであらわしているのではなくて、欄に色づけしていただくことによって、その特徴がマップとして見えるんですね。このところでは、これが中心だ。この欄ではこれが中心だということで、せっかくクロスでやっているの、横方向の集計だと思いましたが、1位と2位に色づけるとか、そういうふうにやると、その特徴が見えてくるというので、いいと思いました。工夫していただけるといいと思います。

それから、その次の110ページですけれども、上でできることがたくさんあるというところで、先ほど、パソコンの話がちらっと出ましたが、それよりも気になったのは、4年生で「何もしない」というところ、nの18ですけど、ここがまた1つ、特徴が出ています。それが6年生になると、大分、解消されるけれども、4年生で「何もしない」、「できることがたくさんある」と思わない人がすごく多くて、小学校の中学年における自己肯定感の醸成、それをもっと工夫するといいと思います。

上の説明では、それが全然書いてないのですが、これは特徴的ではないかなと感じま

した。

122ページのあたり、手取り収入300万とそれ以上の家庭と比較していますが、特に子どもが学習できる場所の要求というのは結構多いですね、35.3%。「あそべえ」も含めてなのですが、放課後をどのように居場所をつくってあげられるか、今後の課題であると思っています。この後の総合教育会議でも出てくる可能性もありますが、放課後の過ごし方に対して、これから真剣に考えていく必要があると思います。学校教育の、授業の中では、ある程度成果は出ているけれども、放課後の連携をまた工夫していく必要があるのではないのでしょうか。

特に、収入が少ない家庭のお子さんがどのようなところで場所を確保できるかとか、考えられないのかなと思いました。

それから、最後のところの128ページのグラフですが、これも間違っているのか伺いたい。このグラフの折れ線グラフと横の線が入っているんですけど、武蔵野市のデータによる貧困線982番目、この位置がちょっと違うように思われます。この線だと金額と合わなくて、折れ線グラフとの交点が250万くらいになってしまいます。この982番、188万円というのが正しいとすれば、折れ線グラフとの交点の位置が188万になると思うのですが、いかがでしょうか。横棒の点線の位置、国のほうは合っているんですね。1,982番目なのかなと思いつつ、どっちが正しいの。

○竹内教育長 教育企画課長。

○大杉教育企画課長 982番目というのが正しいのですが、この横の位置がもともとずれているような気がいたします。

ここの交錯しているところが、この下の数字の188万のところに上がってないのでおかしいというご指摘ですよね。

○渡邊委員 そうです。だから、多分、これは左の段の人数と何番目というのが関係しているのですよね。国の貧困線だと501人というのは500のところに点線が入っているので、982というと約1,000のところで横線が入らなきゃいけない。

○福島教育部長 188万は正しい。

○渡邊委員 そこの交点を縦方向に見ると、178と200の間になっています。だから、多分、線の位置が違う。

○大杉教育企画課長 線の位置か、この下のメモリ線がずれているか。

○渡邊委員 確認していただけるといいと思います。



細かくは見ていないので、非常にいいデータをとっていただいているので、ゆっくりまた見させていただきたいなと思います。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、この報告事項につきましては、了承されたものといたします。

次に、報告事項5、平成30年度児童生徒表彰受賞者についてです。

教育企画課長から、説明をお願いします。

○大杉教育企画課長 それでは、平成30年度の児童生徒表彰の受賞者につきまして、ご説明を申し上げます。

今年度につきましては、9人と2団体の合計11グループでございます。

上のほうから申し上げますと、まず、吹奏楽団としましては、第一小学校と第三小学校が今回は受賞しております、それぞれ東日本の大会と全国の大会での金賞、優秀賞ということでございました。

二小の北嘉多莉歩さんについては、全国書道コンクールでの最優秀大賞ということでございます。

4番目の大野田小の鍋島映太郎さんでございますけれども、これは、いわゆるロボコンと言われるコンテストでございます、そのElementaryスクール部門で優勝、チームでございますけれども、優勝をいたしました。

井之頭小の深田さんにつきましては、ピアノのコンテスト、全国決勝大会でのベスト38賞でございます。

水泳につきましては、二中の占部凜奈さんが、女子50m自由形で関東の大会で7位。

それと、四中の山崎千瑤さんが日本スイミングクラブ協会の大会でございますけれども、これで3位ということでございます。

また、六中の鈴木杏梨さんが水球という競技、団体競技でございますが、これもJOCのジュニアオリンピックカップ、全国大会での4位ということでございました。

また、7番目、三中の野坂さんにつきましては、バイオリンで全日本のコンクール東京大会で入選をいたしました。

また、三中の岸本錬志さんにつきましては、JOCのジュニアオリンピックカップ東京大会で1位という結果でございます。

また、五中の西舞衣子さんでございますけれども、これは女子ラグビーの選手ということでございまして、全国の大会で7位まで入賞した結果でございます。

以上の11人、団体の方につきましては、来る3月9日、武蔵野公会堂で表彰式を行います。教育委員の皆様方もご臨席を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

説明につきましては、以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問、ご意見がありましたら、お願いします。

よろしいでしょうか。

それでは、この報告事項につきましては、了承されたものといたします。

次に、報告事項6、「武蔵野市立学校に係る部活動の方針」の策定についてです。

指導課長から説明をお願いします。

○秋山指導課長 このたび、スポーツ庁及び文化庁から、部活動のあり方に関する総合的なガイドラインが出されたことを受け、本市においても「武蔵野市立学校に係る部活動の方針」を策定いたしましたので、ご報告いたします。

まず、方針策定の目的ですが、部活動は、大変、教育的意義のある活動である一方、練習時間や拘束時間が長時間に及ぶことによるバランスのとれた生活や成長への懸念、顧問である教員の多忙化への対応、教員の異動等に係る部活動の持続可能性の確保など、多くの課題が指摘をされているところです。

そこで、より効果的、効率的に練習を行い、子どもたちの健全な成長を支え、持続可能な取り組みとなることを目指し、スポーツ庁及び文化庁が定めた総合的なガイドラインにのっとり、本市においても方針を定めたところです。

次に、策定に至る経緯についてです。

昨年3月にスポーツ庁から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が出されました。また、4月に東京都教育委員会から「運動部活動の在り方に関する方針」が示されました。

これらを受け、5月に武蔵野市立中学校部活動あり方検討委員会を設置し、市立中学校の部活動の現状を把握するとともに、部活動の休養日や活動時間、部活動指導員の導入等について、意見交換を重ねてまいりました。

意見交換の内容は、校長会で共有するとともに、その都度、各学校の委員から報告、意見収集をしていただいております。また、この間、昨年12月に文化庁から「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が出されました。内容については、運

動部活動に準じたものとなっております。

そこで、本市としては、運動部、文化部を合わせた形で、部活動の方針を策定いたしました。

次に、部活動の方針の主な内容ですが、部活動の活動方針の公開、そして休養日、活動時間の明確化。そして、現在、技術指導をしていただいている外部指導員とは異なり、顧問のかわりに、試合への引率等も行う部活動指導員の導入等についてです。

具体的な内容は、こちらの本章をご確認いただきたいと思います。本章の4ページにあるように、休養日については、平日に、少なくとも1日、土曜日及び日曜日に、少なくとも1日としています。活動時間としては、平日は2時間程度。学校の休業日は3時間程度としております。

これらは国のガイドラインを参考とし、本市の現状も踏まえて、中学校の教員である検討委員会の委員の意見を受けて定めたものです。

そして、2ページのあたりに出きますが、先ほどお話しした顧問のかわりに試合への引率等も行う部活動指導員については、各委員からの要望が非常に高いものでございました。来年度はモデル校において導入をしていく予定です。

なお、5ページの8に記載しておりますように、文化庁のガイドラインを受け、小学校の吹奏楽クラブや合唱クラブなどの課外活動も、本方針に準じていくのが望ましいと考えております。

最後に、今後の予定ですが、保護者、地域の皆様方への周知につきましては、3月下旬に発行予定の「きょういく武蔵野」において、休養日や活動時間の設定等、方針の概要を掲載するとともに、各学校の部活動保護者会等を通じて、丁寧にご説明をし、ご理解を得るようにしていきたいと考えております。

また、来年度も、今度は小学校の教員も委員に加えた検討委員会をまた設置し、部活動指導員導入の成果や課題、それから、中長期的な視点からの持続可能な部活動の在り方などについて、引き続き検討をしていく予定でございます。

説明は以上です。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問、ご意見がありましたら、お願いいたします。

○渡邊委員 2点あります。1つは、この文化庁のガイドラインの内容を踏まえるということで、吹奏楽部が、クラブの名前として1つだけ出ているのが気になって、特に入れる必要があるのでしょうか。小学校では先ほど合唱クラブというのがありましたけれど

も、中学校はたくさん文化部があるので、あえて吹奏楽部とした理由を教えてくださいたいと思いました。

それから、3ページ目の項目オですけど、研修等の取り組みを行うと書かれています。確保を図るための研修等の取り組み。これから外部指導員なども入ってくるのでしょうか、具体的にどんな取り組み、研修を行うのですか。もし今、案があったら教えてください。積極的に取り組んでいただける方の開発、能力向上に役に立つと感じましたので、伺いたいと思います。

○竹内教育長 指導課長。

○秋山指導課長 吹奏楽部を「はじめとする」なので、吹奏楽部「だけ」ではないのですが、文化部活動の中で、比較的長時間であったり、休養日がいまいちとれていない可能性のあるものが、吹奏楽部で、一番そういう傾向がありましたことから、ここに「はじめとする」という表現で、書かせていただきました。

○小澤統括指導主事 それから、研修のことについてでございますが、こちらは「東京都教育委員会と連携し」という言葉を入れさせていただいておりますが、東京都教育委員会でもこのような、それぞれの種目によってまた知識等が違いますので、その種目にあわせた研修を東京都教育委員会で準備しておりますので、そこをうまく活用しながら、進めていきたいと考えているところでございます。

○渡邊委員 現在も行われているものなのですか。今でもそういう研修を受けている方というのもたくさんおられるんですか。

○小澤統括指導主事 詳細に把握はしていないので、申しわけありません。

○竹内教育長 ほかにはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、この報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に、報告事項7、武蔵野市不登校対策検討委員会報告書についてです。

教育支援課長から説明いたします。

○牛込教育支援課長 では、報告事項7、武蔵野市不登校対策検討委員会報告書について説明をいたします。

本日はお配りをしている概要版に沿って、報告書の内容の説明をいたします。

はじめに、ということで、平成29年2月に、教育機会確保法が施行されたことを踏まえまして、今年度5月に、武蔵野市不登校対策検討委員会を設置しました。これまでの

不登校に関する取り組みを整理した上で、今後の対策を検討し、報告書にまとめました。

2番目の不登校児童生徒の実態としましては、文部科学省の調査によると、武蔵野市においては、平成29年度、不登校児童・生徒数が101名。小学生が40名、中学生が61名となっております。

近年、60名から70名で推移をしておりましたが、小学校、中学校とも増加傾向ということになっております。

3点目の不登校に関する取り組みの現状としましては、まず、各学校において不登校の未然防止ということで、魅力のある学校づくり、また不登校傾向の早期の把握、対応に取り組んでいます。

市教育委員会では、教育相談員、スクールソーシャルワーカーの派遣、またチャレンジルームの運営などによる支援を行っているところでございます。また、市長部局のほうでも、不登校やひきこもりに関する施策を子ども家庭支援センター、児童青少年課、障害者福祉課で行っているというのが現状でございます。

表に載せたデータにつきましては、1点目がスクールソーシャルワーカーの相談件数ということで、こちらも28年度から2名体制にしたこともあり、相談件数については増加をしております。

また、チャレンジルームの登録者数につきましては、30名前後で推移をしておりますが、不登校児童・生徒が増えているということもあって、不登校者に占める割合については、29年度は31%ということになっております。

裏面を見ていただきまして、報告書の中で、検討委員会から提言をされた不登校対策でございますが、基本的な考え方としまして、3点ございます。1点目は安心して生活できる学校づくりに取り組むということ。2点目は不登校児童・生徒に共感的理解と受容の姿勢を持って、本人の自己肯定感を高めながら、自ら進路を切り拓く力を身につけるように取り組む。3点目につきましては、不登校の要因が多様化していることを受けて、関係機関と連携しながら、柔軟で多様な視点をもって取り組む。ということを考えて方として掲げております。

具体的な対策としましては、4段階に分けて掲載しております。1点目が安心と魅力のある学校づくりということで、こちらは既に各学校で取り組んでいることを今後も引き続き行っていくということです。

2点目につきましては、早期発見・早期対応です。こちらも不登校の傾向をできる限

り早く把握をして、学校内で組織的・迅速な対応を行っていくとごうでございます。

3点目につきましては、不登校傾向、不登校児童・生徒、また、家庭の支援ということで、こちらについては、スクールソーシャルワーカーと家庭と子どもの支援員を、今後、また配置拡充をしていくということと、また、家庭への支援ということで、保護者への情報提供、フリースクールなどの情報提供ですとか、あるいは保護者同士の交流の促進などに取り組んでいくということを対策として提言しております。

4点目が多様な学びの場づくり、ネットワーク化ということで、今はチャレンジルームを運営しておりますけれども、より柔軟な運営体制を含めた機能強化、あるいは、複数設置の検討、また、不登校特例校分教室の必要性の研究。民間施設、フリースクールとの連携強化。市関連事業との連携の促進。ということを掲げております。

報告書の内容については以上でございますけれども、この提言に基づいて、また、来年度以降、不登校対策により一層取り組んでいこうと考えております。

説明については以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの質問にご質問、ご意見がございましたら、お願いします。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 ご説明ありがとうございました。

1ページ目の不登校児童・生徒数の推移の表の中で、だんだん増えていく傾向があるというのは残念ですけれども、斜めに見ていくと、1つの特徴が出てくるのかなと思います。

学年は順番に進んでいくわけですから、縦方向だけではなく斜め方向にどのように推移しているのか。中1ギャップは余りないという話もありましたが、これを見ると、結構ありますので、どうやって対応していくかということ、今後検討する必要があると思いました。

この間、研修で、アメリカンスクールに行ったときに、非常に自由な雰囲気のある部屋があって、いろいろな椅子があって、座ってもいいし立って勉強してもいい。おもちゃもいっぱい置いてあってごちゃごちゃしている感じはするけれども、すごく来て楽しいと感じられる部屋なのです。

だから、学校は単に机と椅子がそろっている空間ではなくて、来て楽しめるような部屋を用意していくのが必要と感じましたので、参考にしながら、やっていけるといいと思いました。

○山本委員 横田基地のアメリカンスクールの雰囲気はよかったですよね。何となく規律もあって、ごちゃごちゃしているように見える道具類を子どもたちがちゃんと管理して、片づけていたり、そこに教育のあり方があらわれていて。

でも、給食だけは日本のほうがずっといいと思いました。

教室の雰囲気の中に、もう少し多様性があらわれていてもいいというのは、私も思ったことでした。居心地がいい感じで。

大杉課長もご一緒したんですよね、アメリカンスクール。

○大杉教育企画課長 たしかあの部屋は、シュアスタートの部屋だったかなと思っていて、2歳くらいの小さい子ですかね。すごく居心地がいいような形で、かなり衝撃を私も受けました。あの部屋に限らず、普通教室でも結構、担任の先生がいろいろなつくり込みをされていて、すごく本が充実している教室もあったり、ソファがあったり、日本の学校とはちょっと違う、やや家庭に近い空間づくりをされていると思いました。

○山本委員 図書室もとてもよく使われていて子どもたちの希望が一番という感じでしたよね。選書もよかったし、貸出率も高くて。そこでも、椅子とか居場所の感じが影響しているような気がして、どこで読んでもよくて、廊下にも椅子が置いてあって、あの感じが居心地よさそう、と思いました。

だから、もしかしたら、授業には出られないんだけど、廊下にはいる、という子もいるんだろうか。そこまでは詳しくは聞かなかったけれども。でも、本当に多様な子どもを受け入れているという感じがしました。

○渡邊委員 そういう点で、このチャレンジルームの登録者数が、この上の数字と比べて割と少ないので、工夫しながら、もう少しこちらに来てくれるきっかけをつくれたらいいと感じました。来ると楽しい、そこからスタートするといいと思います。

○牛込教育支援課長 不登校の児童・生徒数については、その年の学年によった特色も多分にあるということで、こちらの分析も続けていかなければならないと思っています。

また、多様な場ということで、まずは、安心して魅力のある学校の雰囲気をつくっていくことが大切だと思っています。また、チャレンジルームについても、子どもたち一人一人、ニーズも多様化しているので、それに対応できるようなところにしていければと考えております。

また、さらに多様な学びの場のあり方については、さらに来年度、引き続き検討していきたいと考えております。

○山本委員 1つお願いですけれども、私が教育委員になったばかりのころ、一度、チャレンジルームを見学させていただいたんですけれども、それ以来、その機会はずっとないですよ。だから、一度、また見せていただくような機会もつくりたいと思います。

○竹内教育長 ほかにはございませんか。

それでは、この報告事項につきましては、了承されたものといたします。

次に、報告事項8、生涯学習に関する調査報告について、です。

生涯学習スポーツ課長から、説明をお願いします。

○長谷川生涯学習スポーツ課長 では、生涯学習に関する調査報告について、説明をいたします。こちら、資料概要版と、それから青い表紙の冊子をお手元にお願ひできればと思います。

業務状況報告の中でも、何度か進捗についてご報告させていただきましたが、このたび報告書がまとまりましたので、報告をさせていただきます。

まず、概要版をお願ひできればと思います。概要版の表紙に目的がございます。31年度に計画の策定が行われますので、この基礎資料として、現在の計画の評価、それから現在の生涯学習の現状、ニーズ、こういったものを把握するために、調査を行っております。

調査の内容、これも表紙にございますが、大きく4つの調査を行いました。1つ目が市民に関するアンケート調査、それから、団体に対してのアンケート調査、3つ目がこれはウェブの調査になりますが、周辺住民の方へのアンケート調査、そして4つ目が団体へのヒアリング調査でございます。市民会館の運営委員、文化財の保護委員、それから、障害者団体へヒアリングを行っております。

概要版をお開きいただきまして、1ページから2ページが、これまでの生涯学習の取り組みと市民への実感ということでまとめてございまして、3ページ、4ページ目が主に市民のアンケートから見えてきたポイントをお示ししてございます。5ページ以降が市民向けアンケート調査、団体向けアンケート調査、そして周辺住民へのアンケート調査についてまとめてございます。

1ページ目、2ページ目でございます。

現在の計画につきましては、この左側、1ページにお示ししてある、6つの基本目標、こちらに従って進めております。学びを育む基礎づくりから始まりまして、市民文化の発信、そして、未来への学びの継承、その下地に、生涯学習社会基盤、それぞれの目標



について市民の方がどういうふう実感しているかというのを、そのままの聞き方ですと答えづらいので、少しかみ砕いた質問にしてあります。

問12の部分についてでございます。

1 ページの下の方にありますとおり、①、②、⑤、⑥の目標につきましては、おおむね半数の人が実感している。ただし、③、④の目標、学びの成果の共有、それから、文化の発信というところについては、道半ばということになっているという結果が出ております。

①、②、⑤、⑥につきましても、半数いっているとも言えますが、まだ半数というようならえ方もできますので、道半ばの部分もあろうかと思っております。

それから、3 ページ、4 ページが、市民のアンケートの中で見えてきたポイントを3つほどまとめてございます。詳細な分析についてはこれからでございますが、このようところが、今のところ見えてきているということでございます。

3 ページの1 番が、学びと人とのつながりでございます。左の上にありますとおり、問3におきまして、市民の方が学んだことがあるという方が約7割、問8、右側にまいりまして、それを友人や知人、家族に伝えたことがある方が63.4%ということで、学びがコミュニケーションのきっかけになっているということがうかがえますが、問8の結果にありますとおり、地域やコミュニティの活動に役立てたというものについては、8%にとどまっておりますので、コミュニケーションのもとにはなっておりますが、地域やコミュニティに役立てるといふところには至ってないというところが見えてまいります。

また、下にまいりまして、学習活動とつながりの関係というところでまいりますと、行動層と関心層、無関心層という言葉が出てまいりますが、これについては、10ページに説明が書いてございます。

無関心層というのが学ぶことに関心がなく、学習活動をしていない。関心層は関心があるけれども、行動していない。行動層は実際に学習活動をしている方ということになります。

3 ページの左、真ん中の表につきましては、それぞれの層が学習活動においてつながりを持っているか、持っていないかということがまとめてございます。

やはり行動層のほうがつながりがある方が多いという結果が出ております。

また、その右側にいきまして、問16、問31の中で、学習の効果と地域のつながりの効

果について、聞いております。学習をすることによって、充実した生活を送る方が増え、また、つながりも生まれる。また、地域のつながりが生まれることで、助け合う関係が生まれるということで、それぞれ効果は認められているものの、問8のように、地域やコミュニティの活動までには至っていない。効果は認めるけれども、そこまで至っていないというのがポイントの1つ目かと思っています。

また、右側のページ、4ページにまいりまして、2つ目のポイントですが、問14、市民が求める学びの機会でございます。多いものとしまして、やはりニーズに応えるということ、生きがいを感じられるようにするという。それから、3番目に、学び直しの機会というものが出てまいりました。

それから、右側のポイント2の右の文、下の部分、2つ目のセンテンス、障害者については、ヒアリングから拾ってございます。身体障害者につきましては既存の機会、既存の学習機会に参加しやすいような配慮をしてほしい。また、精神障害、知的障害の方の場合には、障害の程度に応じた参加の機会、それぞれの機会が求められているのかなというふうに読み取っております。

キーワードにございますとおり、ニーズに応じて学びのハードルを下げていく。また、学び直しの機会というワードも出てまいりました。

それから、4ページの下、ポイントの3つ目です。学ぶために必要なこと、ということで、学ばなかった方への間でございます。

問9として、学ばなかった理由。問11として、何があれば学んだのかということで、関心層、無関心層、それぞれに聞いております。学ばなかった理由につきましては、関心層につきましては、やはり忙しかった。無関心層については、特に必要がなかった。また、学ぶためにどうしたらいいのか、何が必要かということにつきましては、関心層については、余り費用がかからずにできることと、身近でできることということがトップにきております。

このことから、キーワードにありますとおり、関心を持っているけれども、行動していない層につきましては、気軽さや身近さ、また安価であることなどが求められていると考えております。

その後、10ページまでが市民アンケートの概略をまとめたもの。それから、14ページまでが、この団体向けのアンケートをまとめたものでございます。

それから、15ページ以降がこの周辺住民の学びに関するアンケートをまとめたものに

なっております、これを今後、詳細に分析をしていきたいと思っております。

また、ヒアリングの調査につきましては、本章のほうの112ページ以降、また、市民のアンケートについての自由欄につきましては、52ページ以降にまとめてございます。今後こういったものを踏まえて、さらに調査分析を進めまして、次期の生涯学習計画の策定に生かしていきたいと考えております。

なお、教育委員の皆様におかれましては、5月9日に策定委員の皆様と懇談をお願いしたいと考えております。それに先立ちまして、4月3日の定例会の日の午後に私どものほうから計画についてご説明をさせていただきたいと考えておりますので、ぜひよろしくお願いをいたします。

以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問、ご意見がありましたら、お願いします。

○渡邊委員 非常によくまとまっているということを感じました。

1ページ目、2ページ目のこの図ですけれども、実は私は策定委員の1人だったので、このグラフ、マップを書くのをいろいろ工夫してこういう形になりましたが、それを使っていたので、大変うれしく思いました。

データでもあらわれてはいますが、段階を踏んでだんだん外に行けば行くほど、パーセントが低くなっています。

実は、これは6番の聞き方は違うのかなと思いましたが、これは自分自身が学習して、それを社会に還元すべきかどうかということですね。

だから、そういうことだと、もうちょっとパーセントが少なくなるのかなというふうにも思います。積極的に組織をつくったり、それから、活動をみんなに説明したりとか、そういう場に自分がどのように参加しているのか、そのあたりが⑥だと思います。その辺をまた工夫していただけるといいと感じました。

予想していたとおり、だんだん減ってくる傾向がある。基盤としては、44.1%の数値が、もう少し増えるといいと思います。今後の課題であると思いました。

それから、冊子でまとめていただいて、クロス集計をきれいにまとめていただいておりますけれども、この色分けのところの説明がないんですね。横方向に見て、一番大きいところ、2番目のところに、ハッチングされていると思っておりますけれども、その説明もしていただけるといいと思います。

特に2ページ目のところ、標本誤差のところと言及していただいて、このデータは、

パーセントが少ないところは誤差の範囲かもしれないということを記述していただいているので、きちんとした統計の見方をしていることがよくわかります。

気になったのは、92ページに、武蔵野市立図書館とプレイス、どこで学んだことがあるかという質問で、この項目、プレイスにも図書館が入っているわけですね。だから、書くときにどっちに書いたらいいのか迷っている方もおられたのかなと感じました。プレイスは4つの機能があるわけですが、その中の1つは図書館の機能があるわけですから、多分、市立図書館のほうのパーセントがもっと増えるのかなと思いました。結果として出ているので、中身はわからないけれども、その解釈をきちんとしていただけると思います。全体としてわかりやすい、今後の施策に役に立つようなデータになっていると思いました。

ありがとうございました。

○竹内教育長 山本委員。

○山本委員 概要版の3ページのところの間8に、過去1年間に学んだことを「誰かに伝えたり、何かに役立てたりしましたか」というところですが、81.5%の人が「伝えたり、役立てたりした」ということになっています。これはとても大きな数で、パーセンテージで、行動層、関心層、無関心層と分けているけれども、無関心層が上のほうに上っていく可能性をこの数字は語っていると思いました。

ただ、さきほどのご説明の中にもあったように、地域やコミュニティの活動に役立てたということを1つとってみると、それが8.0%になっている。これは例えば、私たちがいろいろな研修を受けて、帰ってきたときに、どのように発信したらいいかというのが一番の問題。1人だけ学んで、どこでどう発信したらいいだろうということがとても多いので、これからの私たちの、もっと大きく言えば、武蔵野市の学びの1つのテーマになるだろうと思っています。その発信の仕方、発信の場ということです。

これは、多分この8.0%の人は「伝えたり、役立てたりした」人たちの中に入っているから、どこで、どんな形でと、おろおろしている姿が私には感じられてしまうんですけども、そのことも含めて、みんな考えていく機会というか、それが、多分この次の懇談会のときにもテーマの1つになると思っています。その意味もあって楽しみにしております。

とても立派でびっくりしました。概要版もよくできていて。ありがとうございます。

○長谷川生涯学習スポーツ課長

まず、渡邊委員からいただいたご質問とご意見ですけれども、グラフ、この目標につきましては、現在の社会教育委員の会議の中でも、とてもよくできているので、この基本構造を崩していく必要は今のところないというご意見の中で、これをますます発展させていくという形で今後考えていくという方向になっていくと思っています。

それから、6番につきましては、申しわけございません、ひょっとしたら的外れというようなご意見になるかもしれません。今後、生データの中で、分析をしていく上で、そういった視点で、自分自身の還元という視点を、その中から拾って行って、分析をしていくようにいたします。

また、色分けの説明につきましては、申しわけございません、今後、説明する際に、きちんとやっていきたいと思えます。本来であれば冊子の中に入れるべきでございました。それから、図書館とプレイスですが、これはいろいろ議論がありましたが、やはりプレイスにつきましては、やはり特出しをして聞いてみたいというようなご意見がかなりありましたので、あえてこれは特出しをしておりますが、解釈の中で今後、整理をしていきたいと思っています。

それから、山本委員のご質問です。

やはり発信していく、つながりを持つということがテーマであるというのは我々も考えておりますし、また、自由意見の中でも、やはり「自己満足だけで終わることのない仕組みづくりを充実してほしい」ですとか、「地域コミュニティの育成を目指した生涯学習の機会を市から提供してください」とか、こういった発信、つながりについてのご意見を多くいただいておりますので、大きなテーマとして、次の生涯学習計画の中で生かしていきたいと思っております。ありがとうございます。

○竹内教育長 いろいろな計画を立てるときに、必ずといっていいぐらい、こういう実態調査をするんですけれども、渡邊委員がおっしゃったように、統計上の考え方は大事なんですよね。国の統計をよく見ると、そのように言えるかどうかというのは、ちゃんと検定という考え方をとった上でやっていて、武蔵野市の場合、標本数が少ないから、なかなかそういう確からしさが言えないことも多いんですけれども、これについては、若干そういう標本誤差について触れているということと、さっきの回答で、2ページを見ていくと、1位、2位に網かけをしているということは書いてあるんだけど、濃い、薄いとか書いてないし、最初に登場したときに、本当は書いたほうがいいかもしれないですね。

○渡邊委員 もう1つ、この根拠が何ページの図何々とか示されていて、それも非常にいいですね。そうすると、そこを見ればいいので、これも非常に工夫されている。それもよかったです。

○竹内教育長 ほかにはございますか。

よろしいでしょうか。

それでは、この報告事項につきましては、了承されたものといたします。

---

### ◎その他

○竹内教育長 次に、その他に入ります。

その他として何かございますか。

○大杉教育企画課長 特にございません。

○竹内教育長 それでは、これをもちまして、本日の公開部分の議事については終了いたしました。

次回の教育委員会定例会は4月3日、午前10時から開催いたしますので、よろしくお願いいたします。

会議の初めに申しましたとおり、これより会議を非公開といたしますので、傍聴者の方はご退席をお願いします。

午後 0時10分 公開部分議事終了